資料　総０６－（3）

地震調査研究推進本部の成果の活用について

兵庫県防災計画室　　山本　晋吾

平成２１年１０月１５日（木）
地震本部政策委員会　第６回総合部会

概要

- 防災基本計画
- 地域防災計画 (地震災害対策計画)
- 被害想定と地震動予測の地震対策への影響
  - 市町村防災対策のミスリード
  - 住民のニーズ
- 地震動予測地図の活用状況
- 地震動予測地図の地震対策への展開
  - マクロとミクロの視点

防災基本計画

地方公共団体は，地域の特性を踏まえた被害想定を実施し，それに基づく減災目標を策定し，国の協力のもと，関係機関，住民等と一体となって，効果的かつ効率的な地震対策の推進に努めるものとする。（防災基本計画２編１章１節：平成２０年２月中央防災会議）

地域防災計画（地震災害対策計画）

既往地震の概要

地震被害想定の結果

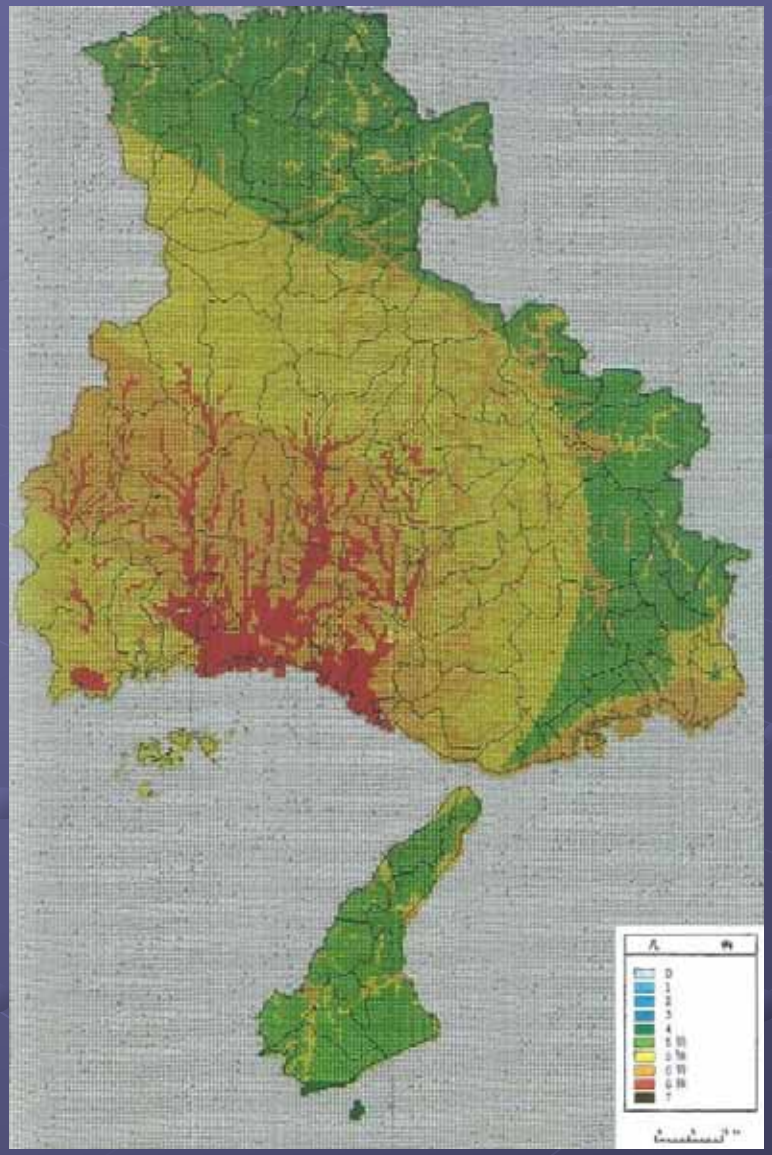
災害予防計画 ← 数値目標

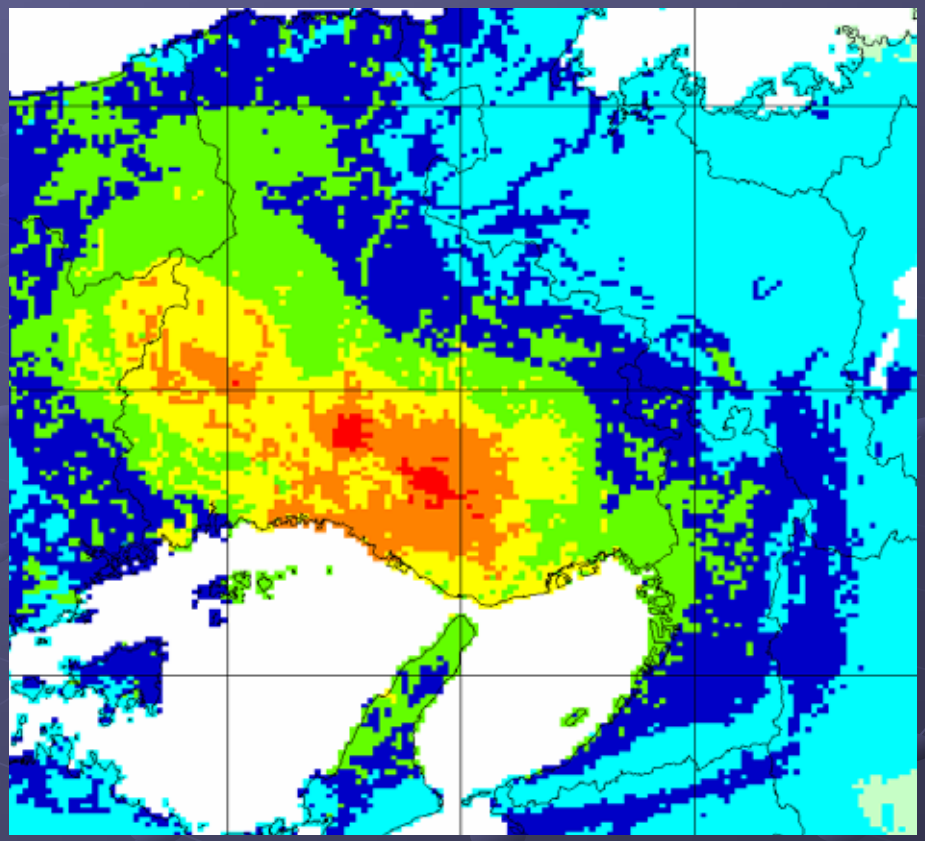
災害応急対策計画 ← 時系列計画

災害復旧計画

災害復興計画 ← 事前復興計画

被害想定と地震動予測の地震対策への影響





↑中央防災会議の被害想定による山崎断層帯地震の震度分布 (2007)

←県の被害想定による山崎断層帯地震の震度分布 (1999)

市町村防災対策のミスリード

- ある首長の訴え

「中央防災会議の内陸型直下地震の被害想定では、山崎断層帯の地震で本市は震度7が想定されている。これまで県の被害想定では想定されていないのに、住民の不安解消をどうしたらいいのか。万一、被害想定に誤りがあるのであれば、訂正が必要であると考える。」

- 中央防災会議の被害想定

→某市の死者１，０００人、倒壊家屋１３，０００棟

- 兵庫県の被害想定

→某市の死者2人、倒壊家屋３００棟

住民のニーズ

【よくある問い合わせ】

- 自分の家が活断層の上にあるかどうか確認したい。
- 土地の地盤が地震に強いかどうか調べたい。
- マンションを買いたいが、その地域は地震のときにどのくらい揺れるのか。
- いつ頃地震があると予想されているのか。

⇩

- 個別の情報提供による危険性
  - 断層の上でないから大丈夫。
  - （被害想定のある）断層から遠いから被害が少ない。
  - 地盤がしっかりしているところだから揺れない。
  - 阪神・淡路大震災が起きたから、生きている間は地震は起きない。

地震動予測地図の活用状況

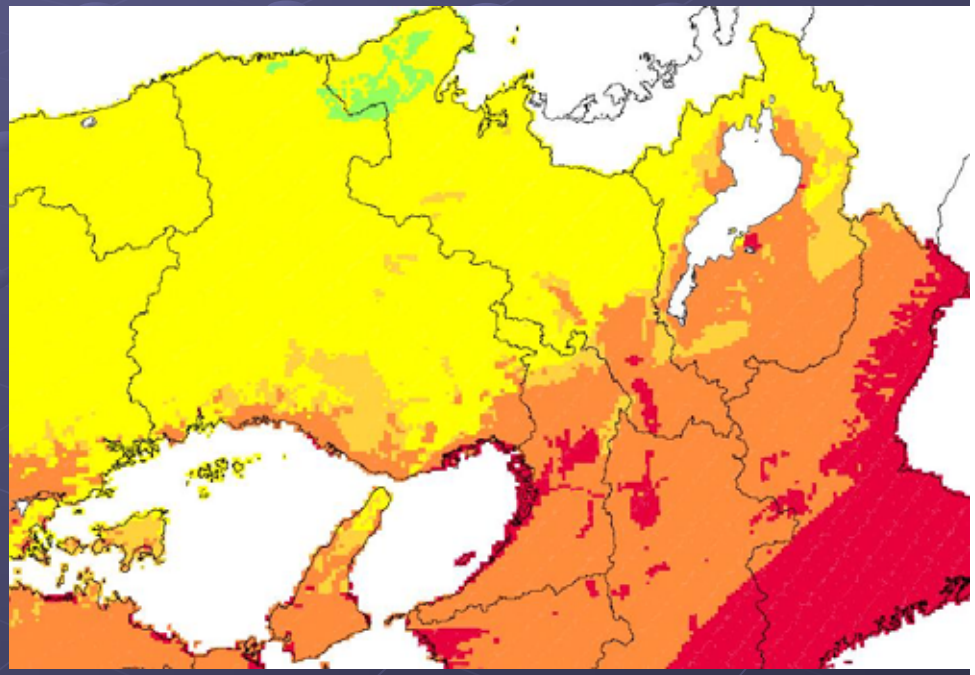
防災力強化県民運動啓発ちらし

地震動予測地図の地震対策への展開

	地震動予測地図	地震被害想定
内容	特定の地域における地震動が発生する**可能性**	特定地域の地震発生時の被害の**規模**
評価	**複数の地震**についての評価	**単一の地震**についての評価
展開する地震対策	ミクロ・長期的・被害軽減 ⟷ 応急対応・短期的マクロ	
	●耐震化の推進 ●家具の固定 ●地震保険（保険料率） ●自主防災組織 ●企業の事業継続 ●防災教育（リスクの理解）	●（消防・警察・自衛隊）応急救助体制 ●避難所設置 ●食料・物資備蓄 ●被災住宅対策（被害認定） ●防災教育（ハザードの理解）
対策主体	住民（個人・地域）、企業、市町村（防災知識は多くない）	国、都道府県、市町村（ある程度の防災知識あり）

地震動予測地図利用の展開方策

- 防災基本計画への記述
  - 地震被害想定だけでなく、地震動予測についても言及する
    - 全国の地域防災計画での記載が検討される
- 地震動被害の明示
  - 地震被害想定と同じように被害まで示して、理解しやすい提供方法を考える
    - この確率だからどうなる
    - 家屋が倒壊するような激しい揺れ（6弱）が、今後３０年以内に発生する確率は○○％
    - 兵庫県のチラシ：今後３０年度以内に震度５弱以上の揺れに見舞われる－震度５弱「家具が移動することがある」

兵庫県における
地震動予測地図利用の今後の展開

- ２１年度改正の地域防災計画への記載
- 消防防災ＧＩＳへの地震動予測地図の登載
- 地域のハザードマップへの記載
- 超高層ビルの管理者・管理組合への長周期地震動対策（家具固定など）の啓発資料への記載